

4年間をふりかえって!!

皆様には清々しい新年をお迎えのことと拝察申し上げます。

去る平成19年4月、皆様の温かいご支援を賜り、群馬県議会に議席を与えられてから、4年が経とうとしています。この間、私たちの伊勢崎市、群馬県を取り巻く環境は大きく変化しました。

リーマンショックや円高等による世界同時不況は我が国の経済・社会に測り知れない影響をもたらし、県民生活、市民生活を直撃しました。世界のほかの国に比べてそれからの立ち直りが遅れている原因には急速に進んだ、少子高齢化に対応して来なかった政府の無策があります。

「低負担、高福祉」を「国債の増発」という借金で手当てする一方で「公共投資」こそが経済の活性化と雇用の確保に繋がるという「神話」を信じてきたツケがいっぺんに顕現しました。そこで国民の皆様が選択したのが、一昨年の「政権交代」でした。

しかし、民主党政権といえどもわが国の経済・社会の構造的な硬直性を一気に解決する妙手はありません。解決の方向に向って舵を切ったばかりです。わが国は今、抜本的改革に向けた第一歩を歩み始めたところです。

国のこのような方向転換が私たちの群馬県や伊

勢崎市へも大きな影響を及ぼします。国から多くの権限が県へ委譲され、また県から伊勢崎市へ多くの権限が委譲されましたが、それに見合う財源が補償されていません。それは国の財政が破綻状態にあるからです。



そうしたなか、県行政にも市行政にもいっそうの経費削減と組織のスリム化が求められています。しかも県民・市民の安心と安全、福祉の向上を犠牲にすることなく、それを実行していくことが求められています。

生活者である県民・市民の目線での改革が必要です。どんなに優秀であっても、行政組織の中の人材では限界があります。群馬県約7000億円、伊勢崎市約700億円の皆様の税金の使われ方にはま

だまだ「ムダ」があります。それを執行する知事や市町村長は決して「行政マン」であってはなりません。それをただすべき議員はなおさら「行政側」から独立した存在でなければなりません。

私たち「民主党改革クラブ」はこの4年間、少数会派ながらも「県政改革の旗」を掲げて、真剣に取り組んで来ました。何十億円にもものぼる「塩漬け県有地」の問題から、利用の少ない「県有施設のあり方」、「林業公社の廃止」等々、改革の方向性は確かなものとなりつつあります。

一方、数次にわたり知事ら特別職、県議会議員の報酬や手当の減額を議決することで、僅かながら一般の職員の給与も削減して参りました。公費投入の悪循環を断ち切るために「議員年金制度の完全廃止」に向けて成案を得ることが出来ました。本年6月に予定されている国の法改正を待つて、議員年金制度は消滅します。

こうした様々な「改革の流れ」を停滞させることは許されません。皆様のご理解とご支援があれば、皆様から「改革に力を」与えていただければ、この流れは大きな川となります。

皆様にとりまして、この新しい平成23年が輝かしい年となることを心よりお祈りし、年頭に当たっての「議会報告」とさせていただきます。